

反畑誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

講師紹介は、前ページに記載

〈講義概要〉

本講座のコーディネーターである立命館大学の反畑誠一客員教授が、前期の中間総括として、新型多機能端末時代の到来についての講義を行った。

まず、開講オリエンテーションの復習としてメディア・リテラシーについて説明し、時代に合ったリテラシーを身につける必要があることを再確認した。

引き続き、ITの世界に改革を起こした4人の起業家やその事業の業績について紹介し、5月に日本でも販売が開始された多機能端末 iPad の特徴や、その普及に伴う日本国内の情報サービスの変化、影響を受ける市場などを分析。今後のメディアのあり方を提示した。

まとめとして、「情報モラル 10 か条」を示し、情報システムの形が大きく変化する中で、情報モラルをもう一度見直し、デジタルデータやネットワークを有効に利用することの重要性を説いた。



〈受講生の感想〉

今日の中間総括で情報化が進む日本の現状を再確認したと同時に、メディアリテラシーの大切さというものを改めて感じました。「dog year」と言われるほど速いスピードで技術革新が進んでいる世の中で正しいメディアリテラシーを身に付ける事は非常に困難な事だと思いますが、このような時代だからこそ正しいメディアリテラシーを身に付けることが重要です。私達は世の中が提供してくれる便利さというものに依存する事なく、常にメディアに対し、客観的な視線で向き合う必要があるように思います。メディアリテラシーは誰かによって提供されるものでもなく自分の中で構築し、活用しなければ産み出されないものであると思うので、時代に見合ったメディアリテラシーを自分でも構築できるように、これから学びを深めたいと思いました。 立命館大学・産業社会学部・2回生

今日のネットワークは過去に類を見ない形態であり、私たちは新しい事態に受信者としてだけでなく、発信者または表現者としても適当なメディアリテラシーを要求されています。しかしその発達速度はあまりにも速く、人々の思考、体勢が追いついていないという状態です。人々が安全に暮らせるシステムを社会全体で考えなければなりません。

立命館大学・映像学部・3回生

iPad、iPhoneをはじめとする新たなツールは、極端に視覚的だと感じます。少し恐怖さえ感じる程です。何故そんなに視覚中心のツールになったかを考えると面白いのではないかと思いました。夢が未来を作るのかもしれませんが、未来への流れがはやすぎて、私はまだこの情報が溢れる社会に適応できずにいます。この講義を足がかりに、様々な考え方、見方をこれからも学んでいきたいです。

立命館大学・映像学部・2回生

これからすべてのメディア（テレビ、ラジオ、CMなど）がインターネットに集結されていくような気がします。また、iPadのようにますます高技術なものが開発されていくと思います。便利な反面、恐ろしい部分をもっているのもメディアの一面なので、情報モラルを守って、安全で便利にインターネットなどを使っていきたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

現在の情報化社会では、とても簡単に情報が流出してしまうし、コミュニケーションもネット上などでは面と向かって話さないで雑になりがちだと感じます。しかし、ネットはとても便利であり、また様々な情報を得て新たな発見もあると思います。だからこそ使う側の人間がしっかりとしたモラルを持って使うべきであると今回の講義で痛感しました。

立命館大学・法学部・3回生

ネット文化はこれからもどんどん進化し、発展し続けると思うが、新しいものが必ずしも一番便利で良いものだとは限らないと思うし、ルールを守りみんなが共に便利である社会でありたいです。情報モラル 10か条を知って改めて実感できました。発信者としても受信者としても、しっかりと正しいモノを判断できる目が必要だと思います。

立命館大学・産業社会学部・2回生

「情報モラル 10か条」は、知っていて当然のことだけれど、改めて学習することができました。今後は今よりさらに情報が主役となる時代となってゆくとおもいます。しかし、私たち人間が主役であることに変わりはないと思います。第10条（たまには会って話そうぜ）は、簡単なことだけど難しく、重要なことなのだと思います。

京都光華女子大学・人間科学部・2回生

こんな時代だからこそ、必要な情報を見極め、顔と顔とのコミュニケーションを大事にしていきたいと感じました。2年後、5年後、10年後にどのような社会になっているかを考え、時代にあった能力を身につけたいと思います。立命館大学・産業社会学部・3回生

現代には多くの企業家が存在する。彼らに共通する点は若い青年期の頃から目標を持っていた事である。我々学生に必要であり多くの人に欠けているのがこの点であると感じる。これは私も含めての事である。やはり、目標を立てておく筋道を立てて行動しやすいと思う。彼らにひらめきというものもあったと思うが、それは目標・夢を持っていたが故の事であるのだ。私も今後は明確な目標を立て将来に向けての基盤作りとしていきたい。

立命館大学・国際関係学部・3回生